

父が遺した“エンディングノート”が開かれる、その時まで。 人間味あふれる父とその姿を見守る家族を「娘」が描いた、 感動のエンターテインメント・ドキュメンタリー

私の名前は砂田知昭。享年69歳になります。

毎年欠かさず受けていた検診で癌が発見されたのは、会社を引退して二年後の2009年の事。発見時にはすでに手術が不可能な状態でした。

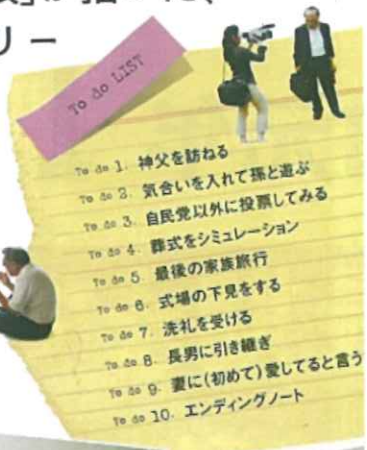
がん告知後、私がまず最初に取り組んだのは“エンディングノート”と呼ばれるマニュアル作り。

これは遺書よりはフランクで法的な効力を持たない、家族への覚え書きのようなものです。

自分の人生をきちんとデッサンしておかないと、残された家族は困るでしょうから…。

「段取り命!」で高度経済成長を駆け抜けた元熱血営業マンの私にとって、

死に至るまでの段取りは、人生最後の一大プロジェクトになります。



残された時間を前向きに生きようとする父と、家族の姿。
涙と笑いに包まれて、誰もが自分の家族に思いを寄せるあたたかな作品。

病と向き合い、ユーモアと活力を最後まで失わない父と家族の姿を、娘は記録し続けた。療養ゴルフ、熟年離婚の危機、孫たちとの交流、入院生活、教会の下見、家族旅行、そして人生最後の時まで。膨大な映像記録から「家族の生と死」という深淵なテーマを、軽快なタッチと質感を交えながら見事に描き出したのは、幼少の頃から家族や友人にカメラ

を向け、大学在学中にドキュメンタリーを学んだ後、監督助手として足枝裕和らの映画制作に従事し、本作が初監督となる砂田麻美。プロデュースに、「誰も知らない」「奇跡」など映画監督として第一線を走り続ける足枝裕和、さらに主題歌「天国さん」はハナレグミの新曲、劇中音楽全編もハナレグミが制作している。



なんで監督のパパはこんなに最後まではっきりしてられるのか、
なんの力が彼を動かしているのか。
それはやはり結束のかたい家族への愛なのだろう。
みんながあきらめているような奇跡が
さりげなく実現していて、感動以上にまずとにかく驚いた。
この映画は希望だと思った。

よしもとばなな (作家)

「音のない花火」
砂田知昭の描いた「エンディングノート」
ポプラ社刊 砂田麻美 著
¥1,470(税込)
※ 9/15発売予定

「死ぬまでにしたい大切なこと -もしも寿命3ヶ月といわれたら-」
リンダパブリッシング刊 ¥550円(税込) ※10/1発売予定

エンディングノート

撮影・編集 監督 砂田麻美 製作・プロデューサー 足枝裕和 主題歌「天国さん」(SPEEDSTAR RECORDS) 音楽「ハナレグミ」
出演 砂田知昭 制作「ビジュアル」 配給 宣伝セターズ・エース 宣伝協力 PALETTE
企業アドバイザー 野村健康株式会社 大塚日野株式会社 株式会社マワーファーマシー ジェリアンヘルム 株式会社石村株式会社
特別協力 東京エー・エー・エー 2011年「エンディングノート」制作委員会 (2011年/日本/カラー/デジタル/90分)
www.ending-note.com



入場整理券配付場所

- 美濃加茂市 美濃加茂市高齢福祉課・健康課・文化会館・文化の森・生涯学習センター・プラザちゅうたい・総合福祉会館・図書館・各連絡所・牧野交流センター
- 坂祝町 坂祝町福祉課・坂祝町地域包括支援センター・坂祝町総合福祉会館・坂祝町中央公民館
- 富加町 富加町福祉保健課・富加町地域包括支援センター
- 川辺町 川辺町地域包括支援センター・川辺町やすらぎの家・川辺町中央公民館・川辺町B&G海洋センター
- 七宗町 七宗町住民課・七宗町地域包括支援センター・神淵支所
- 八百津町 八百津町健康福祉課・八百津町地域包括支援センター・八百津町教育委員会・八百津町社会福祉協議会・役場各出張所
- 白川町 白川町保健福祉課・白川町地域包括支援センター
- 東白川村 東白川村国保診療所・東白川村地域包括支援センター